平城京で出土した鉄斧

ここに並んでいるのは、これまでの平城京の発掘調査で出土した奈良時代から平安時代前期頃の鉄斧です。これらは木材を加工する際に用いられた道具であると考えられます。

斧は、柄の付き方で縦斧と横斧に分けられます。刃が柄と平行すると縦斧、刃と柄が直交すると横斧になります。刃は、上部両辺を折り曲げた袋状になっており、この袋部分に柄を差し込んで利用します。柄は木で作られますが、一緒に見つかることはあまりありません。そのため、柄が残存していない状態では、形状から縦斧か横斧かを区別することが難しくなります。右端の鉄斧には、幸いにも柄の一部が残っていたため、横斧として用いられたことがわかりました。

平城京から出土した柱等の建築部材や、木屑などと照らしあわせることで、古代の人々が鉄斧を用いて、どのようなものを加工していたのか、調査を進めていきたいと思います。　（都城発掘調査部　浦 蓉子）

奈良時代の横斧（復元品）

写真は原寸大（復元品を除く）